

2) 安全施設の設置

ため池への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに安全施設を設置することによる対策を行うこと。

【活動のねらい】

ため池沿いにおいて、フェンスなどの安全施設がないために転倒や転落の恐れがある場合、安全施設を新たに設置して、ため池周辺の安全確保を図ります。



フェンスなどの
安全施設がないため池

【活動の内容】

2-1) 計画

ため池沿いにおいて、フェンスなどの安全施設がないために転倒や転落の恐れがないかを目視にて点検します。また、ため池を利用する方などからため池周辺の安全性について聴き取りを行います。点検結果に応じた対策方法を検討しますが、施設管理者や関係機関等と十分に相談することが大切です。

フェンスを設置するに当たっては、施設管理者や関係機関等に相談しながら、高さや延長、材質などを決定する必要があります。フェンスには、金網以外にも、格子、メッシュなど色々な種類があります。また、材質もステンレス、アルミニウムなどの種類があります。ランニングコストも考慮しフェンスのタイプを検討することが必要です。また、周辺の景観に配慮しフェンスの色も検討します。また、フェンスを設けた場合は、草刈りに手間がかかることとなりますので、フェンスの足下にコンクリート打設等の防草対策を施すことも検討します。

なお、市町村や水土里ネット等の管理する施設において工事を行う場合は、あらかじめ、市町村や水土里ネット等と協議を行い、必要となる図面等の書類、譲渡の時期、その他必要となる手続きについて指示を受けて下さい。

2-2) 実施

まず、フェンス支柱を建てるための基礎が必要となります。土の上にフェンスを建てる場合は、土を掘ってコンクリート基礎を埋設した後、支柱を垂直に建てた状態で仮固定をしておきながら、支柱とコンクリート基礎との間にモルタルを流し込み支柱を固定します。コンクリートの上にフェンスを建てる場合は、必要に応じてベースプレートやアンカーといった特殊



金網フェンスの
設置状況

な金物を用いることで支柱を建てることができます。その後、胴縁と呼ばれる水平方向部材を上段と下段に取り付けて支柱間を連結し、ボルト・ナット等を締め付けて固定していきます。支柱と胴縁を固定した後に、緩みが生じないように金網を張っていきます。

2-3) 確認

フェンスの各部材間の接合部のボルト・ナットの締め忘れや支柱基礎にぐらつきなどがないかを確認します。

2-4) 財産

工事完了後は、財産管理台帳に必要事項を記入し、保管します。なお、財産を譲渡する場合は、施設の管理者から受けた指示に基づき、速やかに財産を譲渡します。

【配慮事項】

- ・作業に当たって道路を占有するときには、事前に関係機関（所轄警察署等）へ相談し、必要な手続きなどを行います。

【安全施設の更新】

～活動例～

○フェンスの設置

・対象施設

ため池

・活動内容

ため池を点検したところ、一部に転落の恐れがある箇所がみられた。そのため、当該箇所に新たな金網フェンス（高さ2.0m、延長10m）を設置した。

・活動時期

12月

・参加者

水土里ネットの指導のもと、農業者6名